

医療介護経営研究センター

Research Center for Medical and Long-Term Care Management



「医療経営」「介護経営」に関する研究・実践を通じ 医療・介護分野の経営課題の解決を支援する

超少子高齢社会にあつて、医療機関や介護事業所は質の高い医療と介護を提供するとともに、自律的に存続していくことが求められていますが、人材不足や経営力量の不足など様々な課題があります。同時に医療・介護費用の増大は社会保障制度を持続していく上で深刻な課題となっています。

こうした医療機関や介護事業所の経営課題と社会課題の解決に寄与することを目的として、2019年、医療介護経営研究センターが発足しました。それに先立って2009年に設立された医療経営研究センターで、10年にわたって医療と介護における経営について研究と実践を積み重ねてきました。それを継承・発展させ、新たに誕生したのが本センターです。

本センターの特長は、経営学、生命科学、薬学、スポーツ健康科学など多様な分野の研究者が連携し、医療経営と介護経営の両軸で研究するところです。学術研究に留まらず、産官学連携のもと、医療と介護の経営課題および社会課題解決型の研究を推進しています。

医療分野においては、今後、COVID-19を初めとした感染症対応に対してどのような医療提供体制が求められるのか、また特に病院経営を厳しい環境下でどのようにすべきか、さらに地域医療構想においてそれぞれの病院はどのような役割を果たすことが求められるのかについての関心が高まっています。そこで、「病院経営のあり方に関する研究」に焦点を当てた研究を行っています。

介護分野においては、人材不足が深刻さを増す中で、IoTの活用や介護ロボットが期待されています。1990年代以降に、全国に開設された多くの介護施設が今後、建替えやリニューアルの時期を迎えています。利用者にとっても、働く職員にとっても適切な介護施設とはどのようなものか研究し、「未来の老人保健施設モデル」を提示していきます。また、介護業界がCOVID-19対応に追われている中で、「科学的介護情報システム(LIFE)」の運用が上手くいっていない事業所が多い現実を踏まえつつ、科学的介護研究を行っています。

2025年を目標に地域包括ケアシステムの整備が進められる今、どのように地域共生社会を構築していくかが重要な社会課題となっています。医療と介護の両軸で研究を進める本センターの強みを生かし、地域包括ケアシステムの構築に資する医療機関、介護事業所の事業活動と経営について研究し、地域における医療・介護の充実に貢献していきます。



■ シンポジウムを開催

2021年12月4日(土)に「令和3年度介護分野生産性シンポジウム」を開催し、介護分野において生産性向上に取り組む意義は何か、どのように生産性を理解し、法人、事業所で生産性向上に自ら取り組むうえで考えなければならないことは何かを議論しました。



■ ヘルスケアイノベーションサロンを開催

2021年11月24日(水)に、介護分野に限らず、広くヘルスケアの今後に関心があり、事業意欲の高い経営者等の集まる場として「ヘルスケアイノベーションサロン」を開催し、貴重な意見交換をしました。



■ 地域包括ケアシステム構築における医療介護連携プロジェクト

医療と介護の連携課題を軸としながら、地域包括ケアシステムの構築に役立つ医療機関、介護事業所の事業活動や経営とはどのようなものか、自治体を軸とした地域経営の観点からの研究を行っています。



主な研究テーマ

- 病院経営のあり方に関する研究
- 未来の老健モデル研究
- 科学的介護研究



センター長：肥塚 浩(経営管理研究科 教授)

主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 OICリサーチオフィス TEL: 072-665-2570 FAX: 072-665-2579 ✉: oicro@st.ritsumei.ac.jp

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/mltcm/>